

NALC 横浜 第 16 回定時総会議事録

日 時：平成 22 年 6 月 13 日（日）13 時 00 分～15 時 35 分（懇親会 15：50～17：00）

場 所：大和市生涯学習センター

来 賓：大阪本部 神野事務局長、 東横浜 英副代表
南横浜 佐藤副代表、早川副代表、原田事務局長

司 会：宮田皓旦 議 長：福江孝夫 書記：後沢忠夫

1. 開会宣言

宮田皓旦司会から、出席会員 76 名＋委任状 182 名＝合計 258 名であり、平成 22 年 3 月末の会員総数 489 名の 1/3 以上を満たしているため総会が成立する旨の報告があった。

2. 谷口代表挨拶

ナルク横浜：H7 年設立、H22/9 月で 15 周年。H21 年度の時間預託は 133 拠点のベスト 3。会員同士の助け合い、預託時間の利用を進めたい。ナルク 15 周年行事(中仙道エコ・ふれ合いウォーク=19ヶ所植樹、施設訪問)に谷口、北原夫妻参加、533km 30 日を完歩。8 月 10 日記念大会(京都会館)、ナルク横浜の拠点 PR パネルが最高得点を得た。「やさしさも楽しさもあるナルク横浜」をモットーに、ナルクに入って本当によかったと思える拠点づくりを目指したい。

3. 神野事務局長挨拶

ナルク横浜の総会にお祝い申し上げます。昨年のナルク 15 周年を無事終えることができ、会長からお礼の言葉あり。ナルク横浜は預託時間が継続してベスト 3、奉仕活動 5,739 時間がベスト 7 位、奉仕・助け合い両面の活動に敬意を表する。会員の退会を無くすことが今後の課題(ナルク共通)。本部の重点事業 ①孤独死を出さない。(65 才以上、本人同意で様々な方法で見守りを。) ②NPO、労組が参加して新キャビネット：高畑会長は代表幹事 3 人の 1 人。高齢者が暮らしやすく、元気で長生きできるように思いを行政に伝えていく。2,000 の行政単位の中でナルクが地域に密着した形で活動を。会長から、本日の総会の出席者数を知りたい、来年度は出席する、と。

4. 議事 (以下、要点を記載)

4.1 平成 21 年度の一般経過報告：北原事務局長

H21 年度入会 61 人、退会 54 人、H22 年 3 月末 489 人（前年より若干増）この傾向が続いている。活動 6,575 時間(9%減)、奉仕 4,482 時間(新基準)。10 月 3 日「高齢社会をよくする女性の会・横浜大会」で PR できた。運営委員会・各部会の活動は議案書報告のとおり。4 ブロック制 5 年になる、情報の流れなどは交流会で説明を。P.4 が活動成果。退会の多くは入会后 3 年以内。施設支援は全体の 92%。利用時間は若干増。意向調査結果を今後活かしたい。

4.2 平成 21 年度決算報告：上菌会計委員

P/L (議案書 6 頁) 収入 3,673 千円 (時間預託活動寄付金が予算に対し 60 万円減)
支出 2,830 千円(旅費交通費:予算並み、15 周年記念費用:予算を下回った)
収支差 842 千円 (プラス)

B/S (議案書 7 頁) 資産 8,991 千円 (現金預金、貯蔵品)

4.3 監査報告：笹木監事、西野監事 4 月 1 2 日監査実施し正鵠(せいこく)をえた会計であることを報告します。

4.4 平成 22 年度の活動方針：谷口代表

①組織の活性化：体制、会員の盛り上げ後に拠点分離・独立をしたい。小ブロック化を進める。②意向調査結果の活用：一人暮らしの会員の安否確認が必要 ③会員相互の助け合い：貯めた時間の利用。④地域に根ざした活動会員数の拡大：(例) 平塚の七夕祭りにナルクとして参加・PR。⑤新し

い会員を大切に：ブロック単位で新会員に1ヶ月以内に説明を。⑥交流会の充実：イベントなどで参加しやすい形に。⑦本部・各拠点との連携強化

4.5 平成22年度予算：上菌会計委員 ・収入 3,811千円 ・支出 3,150千円 ・収支差661千円

4.6 運営規則変更：北原事務局長 変更なし

平成21年6月3日本部通達（預託時間ゼロの場合、奉仕時間→預託時間に変更可）に基づき、ナルク横浜として新基準を設け4月以降に適用。これ以前は過去の数値を適用する。

4.7 Q：①施設支援が多いが、会員間の助け合いのPRを。②歩こう会などの行事：現役が参加しやすいように曜日設定を。③比較的若い会員も運営委員・世話役→若い会員の意見反映を。

A：意向調査結果の反映に活かす。現在は会員の特技を活かして、施設入居者の楽しみを増やすボランティアが多くなってきている。

Q：①奉仕活動：ナルクの冠が必要か。②横浜の21年度実績では環境関係がゼロ。政府・行政・地域が環境改善をPR中。ナルク横浜としての取り組み方針は如何。

A：ナルクがコーディネートする場合は全て奉仕活動。環境改善に積極的に取り組む。

4.8 以上の議事に対し出席者の拍手で賛意を確認した。

4.9 運営委員紹介 退任：坂東昭次氏、原囿信夫氏 信任：金井 明氏

5. 事例発表

5.1 遠距離介護（湘南ブロック 増田 豊氏）

藤沢在住、ミモザ寒川でボランティア、預託点数 → 静岡の両親の介護に利用（車いすの散歩等、静岡拠点に依頼）、広域活動のナルクは便利。提案①ボランティア依頼方式の改良：お役所仕事の捺印・Fax等手間と日数がかかる。→Eメールで添付ファイル形式へ。（最終目標：電子決済）。②国際化で海外勤務の機会が増加→ナルクが認めた海外でのボランティア→預託点数を日本の両親等のために消化。③介護関係の勉強会や資格取得の機会をナルクで。（自分の成長のために。）

5.2 私の健康法（中央ブロック 高田チヨ子氏）

定年後、友人のギャラリー、某会長の手伝い→ヘルパー(市の講習で取得)で訪問介護（港の見える丘公園～山下公園、保土ヶ谷の山へ階段の連続など）訪問宅への往復は歩くことが多かった。→与えられた環境と思い立ち向かった。→現在の健康の基礎になっている。15年後にナルクに入会、「桜樹の森」で月、木にボランティア（NGの場合は代替え日）。健康第一。70~80才台になったら態度、姿勢が大事、私は胸を張って威張って歩く→背中が伸びる。

6. 意向調査報告（福江孝夫氏、首藤正子氏、谷口代表）

きっかけ、始まり、谷口さんのつぶやき「ナルク横浜をもっと生き生きしたものにしていきたいなあ…」、調査目的（①会員の意見を運営に反映、②調査を通じて会員間の交流を深めたい。）、調査方式（運営委員、世話役が直接皆さんに。）、検討（H21/9~10月運営委員会、10~11月各ブロック交流会、10月調査方法を研修、11/中~H22/2月調査、回収率65%、ナルク新聞・赤いくつを読む=78%、横浜HPを見る=19%、多くの意見=519件（本部39、横浜35、ブロック52、利用122、活動218、他）、意見の例は議事録省略、運営委員参加して優先付け→自宅に近いところでボランティア。利用できるボランティア項目を知りたい。交流会の内容の工夫。介護の知識・経験をレベルアップする講習会を。一人暮らし会員と定期連絡を。次のブロックリーダーの育成を。→ ①への提言（議事録省略）、②それなりに効果があった。→ 運営委員会で検討し、プロジェクトなどで具現化したい。

7. ブロック紹介：情報の流れは別途ブロック長にコピーを渡す。活動風景を紹介。（後沢忠夫）

8. 谷口代表から仲摩邦夫氏に長年にわたる歩こう会講師、夏の講座に関し感謝状が渡された。

以上